



全国学力・学習状況調査に思う

校長 鈴木 二三哉

今年の4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、先月、文部科学省から公表されました。調査を受けた本校3年生の状況は、先月の学校便りでお知らせしたとおりです。(これは、小6生と中3生が受ける調査です)

実は、今年の静岡県の中学校3年生は、3年前の小学校6年生の時、この調査の国語A(国語の基礎的事項を問う問題)の平均正答率で、全国47位(最下位)でした。この結果が公表されたその年の夏、静岡県の教育界には激震が走りました。先生方の研修会を増やし、上位県である秋田県への視察等、波紋は広がりました。何より、子どもたちが「学力の低い学年」とか「最下位の学年」などと揶揄(やゆ)されはしまいかと、心配しました。(毎年、全国のどこかが最下位になるのだから、平均正答率の公表はしないほうがよいと、私は思っています。)当時、私もこの調査結果の分析を試みてみました。

この年の小6国語Aの調査は、全部で19問の問題がありました。そのうち静岡県の子どもたちが、全国の平均正答率を上回ったのは、4問だけでした。その4問のうち2問は、ことわざの意味を4択で答える問題でした。そのことわざとは「石の上にも三年」と「急がば回れ」というものです。当時の小学校6年生は、この問題で全国の平均正答率を上回っていたのです。

これは「私たちは、平均正答率で全国最下位でも、『石の上にも三年』『急がば回れ』ということわざの意味を知っていますよ。先生たちは、何を慌てているのですか。」という、彼ら・彼女らからの教員へのメッセージである、と私は思いました。

今年、静岡県の中3のこの子たちは、国語Aの正答率は全国7位でした。

静岡県の先生方は、小学校では学ぶ意欲を高め学び方を身に付けさせ、そして中学校では基礎・基本の定着と思考力・判断力を高める丁寧な指導に心がけています。上述した内容は、その表れだと、私は信じています。その先端を行っているのが、葦山地区の小中学校だと、私は思います。

青雲祭文化の部

金賞学級3年5組



28年度の青雲祭を締めくくる文化の部を10月7日(金)に開催しました。体育の部終了後に合唱練習は本格的な活動となり、体育の部とはひと味違った学級のまとまりができてきました。当日は、他の学級、学年の合唱を真剣に聴き、お互いの良さを再発見できた文化の部になりました。

文化の部は、小西副会長の始めの言葉から始まり、各学年の合唱コンクールの合間に、英語弁論大会出場者やわたしの主張出場者の発表、吹奏楽部の演奏がありました。最後には恒例となったPTA合唱で「サライ」を保護者と教員で歌い、会場の生徒から大きな拍手があり、文化の部が盛り上がりました。

合唱コンクール入賞学級

- 1年生 金賞4組 『明日へ』
- 銀賞6組 『涙をこえて』
- 2年生 金賞1組 『響き合う命』
- 銀賞5組 『時の旅人』
- 3年生 金賞5組 『十字架の島』
- 銀賞6組 『信じる』

開会式



英語弁論



⇒ 一年生英語
弁論大会出場者



「始めの言葉」小西副会長 工藤会長の話 ↑ 2年生代表岩田さん

わたしの主張で発表した佐藤さんは、11月26日(土)に行われる伊豆の国市子ども若者育成支援大会(時代劇場)でも発表をします。



3年代表梅原さん
勝又さん

